

はなしごと様寄稿脚本

「あえかの死」

作 仲野識（少女蘇生）

芍薬の花言葉

「必ず来る幸せ」

白い芍薬の花言葉

「満ち足りた心」

演出指示

池下さん用に書き下ろしたため、おそらく意図を読み取って上手に読めると思うので、細かな指示は出しません。

基本的にゆっくりりめに読む。雰囲気をもって甘やかに。対恋人を意識して。最後には希望を感じるように。

動画 タイトルバック。黒背景にタイトルがゆっくり浮かび上がり、溶ける。

並んで歩くと、私よりすこし背が高いから、見上げるようにあなたの横顔を見る。

大きなひとみが、白と黒のはっきりしたコントラストにきらめいていた。私はそれを見て、いつもその目に吸い込まれそうだと思う。

手をつなぐとき、離れたくないようにきゅつとにぎってくれる。

長い指で頬を撫でられると幸せを感じる。

眠る時は、いつもキスで起こしてくれる。あなたのキスのない朝は、なんとも目覚めが悪かった。

「好きだよ」の言葉があれば、どんな日だって笑顔になれた。

どこで間違えたのだろうか。

なにが足りなかったのだろうか。

私ではだめだったのだろうか。

きっと最初から間違えていたし、ボタンはずっとかけ違えていたのだ。

それをずっと……、正しいと思い込んで。

青く光る琥珀糖を口に入れる。

舌に残る固いざらつき。かみ砕いてもなくならない甘さ。

ねえ、まるであなたのようなね。

求める愛には限りがなくて、満たされない思いをあなたにぶつけた。

人の心が同じスピードで進むなんて無理だったんだと、離れてから分かったんだ。

白い芍薬の花が、窓から入る日差しに揺らめく。

香る甘さは、まるで夜空から降る星屑のよう。

二人をつなぐイトは、今ほどけていく。

たくさんの愛と、たくさんの未来。

あなたとだから与え合えた。

住み慣れた胸のぬくもりに、振り向けば帰りたくなるけど。

私は今日、あなたという鳥籠から飛び立つよ。

嘘も過去も、もう構わない。

今どこに君の心が旅をしようとも、

一生懸命好きだったことを、忘れるくらい、強く行くから。

動画 芍薬の花束。タイピングの動きで下記、センターへ一行ずつ現れる。

芍薬の花言葉

「必ず来る幸せ」

白い芍薬の花言葉

「満ち足りた心」

すべて現れたら、余韻を持たせて、背景の花束と一緒に溶ける。白背景へ。